

學大科法學大國帝都京

# 叢論濟經

號六第 卷二第

## 論說

- 戰後ノ關稅團體ノ計畫
- 生死減少逆行ノ法則

## 研究

- 植民政策上ノ根本問題
- 本多利明ノ經濟說(三、完)

## 雜錄

- 不換紙幣流通ノ根據ニ就テ
- 在外正貨ノ處分ニ就テ
- 數トリ切手貼用法
- 全米貨幣統一案
- 獨逸<sup>ニ於</sup>工場衛生問題ノ研究
- 經濟雜話(三)
- 再ビ本多利明ノ著書ニ就テ
- 歐洲戰爭ノ經濟的說明
- 戰時戰後ノ佛國物價
- 香港政廳卜對獨貿易

法學博士 戶田 海市  
講 師 高田 保馬

法學博士 神戶 正雄  
講 師 本庄榮治郎

法學博士 戶田 海市

法學博士 神戶 正雄

教 授 財部 靜治

助教授 河田 嗣郎

助教授 山本美越乃

法學博士 田島 錦治

講 師 本庄榮治郎

法學博士 河 上 肇

法學博士 小川 郷太郎

法學博士 佐藤 丑次郎

## 戰時戰後ノ佛國物價

法學博士 小川郷太郎

一、歐洲戰爭勃發以來、何レノ國ニ於テモ、物價ニ非常ノ變動ヲ生シテ來タガ、佛國モ亦其例ニ漏レヌ、佛國ニ於テハ最近ニ至リ、物價ノ騰貴愈々甚シクナツテ來タ様デアアル、物價愈々騰貴スレバ生活費ハ益々高マリテ來テ、パナラヌ、生活費高マレバ、人民ノ之カ爲ニ苦ムモノモ多クナル、ソコデ物價騰貴ヲ抑制セントスル考モ起テ來、終ニ國家公共團體ヨリ食料品ノ物價ヲ公定セントスル論迄生シテ來テ、ソレガ現ニ議會ノ問題トナツテ居ル。

巴里法科大學教授 Souchon ハ最モ善ク此問題ヲ研究シ、本年一月五日開催セラレタル Société d'Economie Politique ニ於テ之ヲ報告シ。又 Revue Politique et Parlementaire 本年一月十日號ニ於テハ自ラ筆ヲ下シテ書イテ居ル、L'Economiste français モ亦此問題ヲ捉ヘテ再三論シテ居ル。余ハ今 Souchon ノ研究ヲ土臺トシ

- 1) Journal des Économistes 75<sup>me</sup> Année—15 janvier 1916. p. 132.—
- 2) La hausse des prix et les projets de taxation (Revue Politique et Parlementaire T. LXXXVI. no.255. p. 167 )
- 3) L'Économiste français des 13 novembre 1915 p. 729; 4 décembre p. 628; 11 décembre p. 761 et 25 décembre p. 825.

L'Économiste français ノ説ク所ヲモ參酌シ、戰時佛國ノ物價ハ如何ニ騰貴シテ居ルカ、又其騰貴ノ原因ハ何テアルカ、戰後ノ物價ハドウナルカラ明ニシテ見ヤウ、

二、先ヅ佛國ニ於ケル物價ハドレ位騰貴シテ居ルカラ見子ハナラヌ、處デ Souchon モ L'Économiste français モ只食料品ニ就テ其騰貴ヲ證明シテ居ルガ、其他ニ及デ居ナイ、今食料品ノ物價騰貴ノ度合ヲ見ルニ卵、馬蹄薯、魚、砂糖、蔬菜、最モ甚シク酒類肉類之ニ次グ、麵麩ニ至テハ極テ僅テアル、尙詳シクイヘバ、

卵ニ就テイヘバ千個ニ付キ一九一三年ニハ百法乃至百三十五法デアツタガ昨年十二月頃ニハ二百法乃至二百五十法ニナツタ正シク倍トナツタ。馬蹄薯ハ百基瓦ニ付一九一三年ハ十二法ナリシモノ一九一五年十一月ニハ二十二法乃至二十四法トナツタ、是モ二倍デアアル、砂糖ハ百基瓦ニ付キ一九一三年末ニハ六十四法デアツタが去年ノ末ニハ百八法トナツテ居ル五割ノ騰貴デアアル、魚類ハ種類ニヨリテ異ルガ、戰前ト一九一五年トチ比較スレバ平均ニ倍トナリ全一期間ニ蔬菜ハ五割、葡萄酒并ニ麥酒ハ三割、燒酎ハ一割半騰貴シテ居ル。肉類ハ其種類ト品等トニヨリテ騰貴ノ状態チ異ニシテ居ルガ Vienne 市場ノ相場ニ就テ本年ノ初ノ週間ノ相場チ一九一五年、一九一

四年、一九一三年、一九一二年ノ平均相場ト比較シテ見ルニ、牛肉ニ在リテハ上等、中等、下等ニヨリテ一割九分、一割八分、一割六分ノ騰貴トナリ、羊肉ニ在リテハ一割四分、一割二分、一割ノ騰貴トナリ、豚肉ニ在リテハ三割五分、三割四分、三割三分ノ騰貴トナツテ居ル。麩麵ハ左程變ツテ居ナイ巴里市公報ニヨルニ、昨年末ノ週ニ於テキログ、〇、四二六デアル正シク一九一二年ノ相場デアアル、一九一二年、并ニ一九一三年ハ之ヨリモ低クナツテ居ツタ、戰爭前ノ年ノ平價値段ヨリハ百分ノ六乃至八騰貴シテ居ルト見ルベキデアアル。

以上ノ騰貴ハ卸賣値段ニ就テイヘルモノデアアル、小賣値段ハ、モツト騰貴シテ居ルコト疑ナイ L'Union Syndicale des Restaurateurs de Paris et du Département de la Seine ノ報告ニ依ルト開戦以來、佛國ニ於ケル食料品ノ騰貴ハ平均三割ナリト云フコトデアアル。此報告ハ Souchon モ引用シテ居ルガ L'Économiste français モ引用シテ居ル、其報告ニ就テ各食料品ノ騰貴ノ度合ヲ見ルニ前ニ掲ケタルモノト殆ト異ラナイ、

是ニ由テ觀ルト、佛國ノ學者并ニ實際家ノ調査シタル所デハ佛國ニ於ケル食料品ハ戰爭以來本年ノ初頃ニ至ル迄ニ三割方騰貴シタト云フコ

4) {Souchon op. cit. p. 168  
L'Économiste français du 25 décembre 1915 p. 824.

トガ出來ル。

三、佛國ニ於ケル物價ノ騰貴ハ此ノ如ク爭フベカラサルモノデアル、然ラハ、其源因ハ何デアル乎。SonchonモL'Economiste françaisモ需要供給ノ法則ニ歸リ、戰爭ガ需要供給ノ關係ヲ亂シタルガ爲メデアルト論シテ居ル。

1) 供給ニ就テ見ルニ、戰爭ノ爲ニ外國品ノ供給ガ大ニ減シタ、先ツ敵國タル獨逸土勃トノ交通ハ絶エタシ、白、露、羅等ヨリノ輸入ハ殆ト不可能トナツタ、ソコデ昨年ニ於テハ食料品ノ輸入ハ三割方減シ、工業品ノ輸入ハ五割方減シタ是レ物價騰貴ノ一大原因デアル、次ニ佛國ノ一部ハ獨逸ノ爲メニ占領セラレテ居ルガ、其占領セラレテ居ル地ハ丁度工業ノ盛ナル地デアルノミナラズ、農業ニ於テモ甚タ重要ナル地デアル石炭并ニ甜菜ハ多ク其地方ヨリ出テ來ル、ソコテ、佛國ハ少クトモ砂糖并ニ石炭ニ不足ヲ告クル様ニナツテ來タ、故ニ外國ヨリ輸入セテハナラス、外國ヨリ輸入シ得ル物ニ就テ云ヘハ運賃ガ頗ル高イカラ、勢ヒ、其價モ非常ニ高イモノ

トナツテ來ル、Cardiffカラ佛國諸港ヘノ運賃ハ開戦以來、六倍ニモナツテ居ル、時ニハ十倍ニモナツタコトガアル、海運ニ於ケル運賃ガ高クナツタノミデナク、海上保險率ガ高クナツテ居ル、ソレニ海港ヘ、船力輻輳シテ居ツテモ、人夫ガ足りナイ所カラ、荷物ノ揚卸ガ困難デ、而モ長時間カ、ル、是等ハ亦皆佛國ノ物價ヲ高カラシムル原因デアル、

併シ運輸ノ思ハシカラヌハ海上ニ止ラナイ、陸上ニ於テモ亦サウデアル、先ツ列車ガ不足シテ居ル、五萬以上ノ車ハ敵ニ奪ハレ、二萬以上ノ車ハ現ニ軍用ニ取ラレテ居ル、故ニ商業上ノ荷物ノ運送ハ十分ニ行カナイデ、遲レ勝デアル、從テ運賃モ高イモノトナル、  
尙進テ考フレハ、佛國內地ニ於ケル生産高モ大ニ減シタ、戰爭ハ四百萬人以上ノ壯丁ヲ奪ヒ去ツタ労働者ガ少クナツタ丈ソレ丈生産ハ減セズニ居ラレヌ、其生産ノ減少ノ程度ハ工業ニ於テハ統計デ證スルコト困難デアルガ、農業ニ於テハ容易ニ之ヲ證スルコトガ出來ル。

小麥ニ就テ之ヲ見ルニ、戰前四ヶ年ノ平均耕地ハ、六、五〇〇、〇〇〇エクタールデアツタノガ、一九一五年ハ五、六九一、七七一、エクタールトナツタ又一エクタールノ收穫モ戰前四ヶ年ノ平均ハ一六六八エクタールデアツタノガ一九一五年ニハ一四、八二エクタールトナツタ、馬鈴薯モ同様デ、戰前五ヶ年ノ平均耕地ハ一、五五五、〇〇〇エクタールデア、一エクタールニ、八〇かんさう宛收穫ヲ得テ居ツタノガ一九一五年ニハ耕地ハ一、三〇五、〇〇〇エクタールトナリ收穫ハ一エクタール、毎ニ六八かんさうトナツタ、甜菜モ戰前五ヶ年ノ平均耕地ハ三三三、〇〇〇エクタールデア、一エクタール毎ニ二四、三〇〇きろぐらむノ收穫ヲ得テ居ツタモノガ、一九一五年ニハ耕地ハ八二、〇〇〇、エクタールトナリ收穫ハ一エクタール毎ニ一八、四〇〇きろトナツタ、葡萄酒ハ戰前、五千萬エクタール以上出來テ居ツタガ、一九一五年ニハ千八百萬エクタールニ過ギナカツタ。是等耕地ノ減少、收穫ノ減少ハ一ハ人手ノ足ラヌ結果ト見ルコトガ出來ル、何レニシテモ生産高ヲ減ジ、供給ヲ少クスルコトトナル、家畜モ亦大ニ減ジタ、牛ハ一九一三年末ニ一四、八〇〇、〇〇〇アツタガ一九一五年七月一日ニハ一二、二八六、〇〇〇トナツタ、二百五十萬頭ヲ減ジタ譯、羊ハ約千六百萬頭アツタノガ、三百萬頭程減ジ、豚ハ七百萬頭程アツタノガ、十萬頭程減ジタ、佛國內地ノ產物カ此ノ如ク減シタトスレハ、ソレ丈ケ物價騰貴ニ影響セスニハ居ラレヌ。

② 需要ノ方面ヲ見ルニ、供給ノ減少シタル丈ケ減少シテ居ルカト云フニソツデナイ、成程戰

時物價騰貴シ所得減少シ節約ノ精神盛トナレハ多少需要ヲ減スルモノモナイデハナイガ併シ反對ニ需要ハ却テ甚シク増加セルモノカアル、第一ニ武器其他軍需品ノ需要ハ頗ル盛ンデアル、是等ハ延テ原料品ニ對スル需要増加トナリ、又其製造ノ爲メニ資本并ニ勞動者ニ對スル需要増加トナリ、一般物價ヲ騰貴スルニ與テ頗ル力ガアル、次ニ又軍隊ノ消費ハ甚タ大ラアル、一人ノ兵士一日ニ四百瓦乃至五百瓦ノ肉ヲ消費スル、二年一人ノ消費高ハ百六十基瓦トナル、然ルニ佛人平生消費スル所ハ一人一年平均五十八基瓦ニ過キヌ以テ如何ニ軍隊カ浪費ヲナスモノデアアルカラ知ルベク、又如何ニ食料品ニ對スル需要ガ加ハリ來レルカラ知ルベキテアル、家畜ノ減少ノ著シキモ亦偶然デアアルマイ。

四、以上ハ專ラ需要供給ノ關係カラ、佛國物價ノ騰貴ヲ説明シタモノテアルガ、Souchonハ更ニ進ンテ銀行券ノ膨脹ト物價騰貴ノ關係ニ論及シテ居ル

戰前ニ於テ佛蘭西銀行ノ銀行券ハ六十九億千

二百萬法發行セラレテ居ツタガ、一九一六年三月十六日ニハ、百四十七億千九百萬法トナツタ、是カ物價ニ如何ナル影響ヲ及ホシタカ。Souchon<sup>5)</sup>ハ、此問題ニ就テ、左ノ如ク論シテ居ル<sup>6)</sup>。

銀行券ノ増加ハ之ヲ正貨ノ増加ト同一視シテハナラヌ、正貨カ増ストキハ貨幣分量說ニヨリ物價ハ騰貴スル傾ヲ有スルガ、銀行券ハ固有ノ價值ヲ持ツテ居ナイ、只、正貨デ支拂スルト云フ約束證券ニ過キナイカラ、兌換銀行券カ増シタカラトテ物價ニ影響セヌ、物價ハ矢張り金銀ノ價ニヨリテ計量セラレテ居ルニ外ナラヌ、然ルニ、不換紙幣ノ發行トナルト、其價格ハ下落シ、金紙ノ間ニ差ヲ生スルヲ免レヌ、ソウナルト、ダレシヤむ法則ニヨリテ正貨ハ驅逐セラレ、紙幣ノミ流通スルコトトナル、是ニ至ツテ紙幣カ物價ヲ定ムルコトナル、紙幣ノ下落ハ物價ノ騰貴トナツテ、現ハレサルヲ得ナイ。

銀行券カ物價ノ上ニ及ホス影響ヲ明カニセントセハ、只現今ノ發行高カ戰前ノ發行高二倍

シテ居ルト云フコトヲ擧ゲタ丈ケデ足ラヌ、其銀行券ガドレ丈ケ下落シテ居ルカラ知ラネハナラヌ、所デ、銀行券ノ下落ノ度ヲ知ルユハ二ノ方法ガアル、其一ハ内地ニ於テ金紙ノ開キノ幾何ナルカラ見ルコトデアル、併シ佛國ニテハ目下此金紙ノ開キハナイ、其二ハ外國爲替デアル然ルニ爲替相場ハ色色ノ原因ニヨリテ定マル、素ヨリ銀行券ノ下落ニヨリテモ影響セラレルガ又國際支拂ノ多少ニヨリテモ影響セラレル、此二ツノ原因ノ中ニ就テモ、何レガ重イカ之ヲ精確ニ定メルコトハ出來ヌ、併シ兎ニ角佛國ノ外國爲替相場ハ騰貴シテ居ル、故ニ外國ヨリ輸入スル品物ニ對シテハ多ク支拂ハネバナラヌコトニナル、之レハ疑モナク、物價騰貴ノ一因デアアル外國爲替相場ノ騰貴ハ一ツハ不換紙幣ノ下落ヨリ來レルモノナレハ、不換紙幣ノ下落ハ物價騰貴ノ一因ト云ヘルガ、又一ニハ國際支拂ノ多キヨリモ來レルノデアアルカラ、國際支拂ノ多キコトモ物價騰貴ノ一因ナリト云ハネハナラヌ、然ルニ戰爭ノ續ク限りハ佛國ハ外國ニ對シテ益々

5) L'Économiste français du 18 mars 1916 p. 381.

6) op. cit. p. 173-

多クヲ支拂ハネハナラヌコトニナル、從テ物價ハ益々騰貴スルモノト覺悟セネバナラヌ。

### 五、戰後ニハ物價ハドウナルカニ就テハ

Souchonハ左ノ如ク論ジテ居ル、戰時ニ於テ物價騰貴ノ源因ヲ爲スモノハ戰争終熄ト共ニ無クナツテ仕舞フ外國トノ貿易交通モ舊ニ復スルデアラウシ、船舶モ御用船ノ役目ヲ解カレルカラ、其運賃ハ下カツテ來ヤウシ、海上ノ危險ガナクナルカラ、保險率モ低クナツテ來ヤウ、内地ノ生産ハ速ニ殷盛ヲ來タスニ相違アルマイシ、一八七〇年ノ歴史ニ徴シテ見テモ佛蘭銀行ハ速ニ兌換ヲ回復スルニ相違アルマイ又外國ヨリ武器其他軍需品ヲ買フ必要モナクナリ、外國爲替相場ノ逆調モ止ムデアラウ、

此ノ如ク戰後ニハ物價騰貴ノ原因ハ多ク消滅シテ行クガ之ト入り代テ來ルモノガアル、ソレハ第一ニハ租稅デアル、佛國ハ戰時中増稅ヲシテ居ラヌガ、戰後ニハ大ニ増稅ヲ行ハネハナルマイ、其稅ハ何デアラウトモ轉嫁シテ物價騰貴ヲ來スデアラウ、消費稅ニ於テハ殆ト疑ナイ、直接稅ニ

アリテモ地租ノ増徴ハ數價ニ影響スベク、家屋稅ノ増徴ハ營業費ヲ増スベク、所得稅ハ、其所得チ形タル各財源ニ稅スルコトナルカラ、ソレノ其源ニ就テ轉嫁スルデアラウ、次ニハ勞働者デアル、戰後經濟ノ回復ヲ計ルニ最モ困難ヲ感スルモノハ勞働者ノ不足デアラウ、殊ニ農業ニ於テサウデアアル、甜菜又ハ穀物ノ栽培ニハ、荒レ果テタル地ヲ掘リカヘシ又森林ヲモ開カネバナナルマイガ、ソレニハ多クノ勞働者ヲ要スル然ルニ勞働者ハ少イカラ賃銀ハ高クナリ、生産費ガ高クナツテ來ル、故ニ食料品ノ價モ騰貴セズニ居ルマイ、工業モ亦戰後ハ大ニ榮エルデアラウカラ、勞働者ヲ需要スルコト急トナリ、其賃銀ヲ高メ終ニ製品ノ價ヲモ高クセナケレハナルマイ、更ニ進テ資本ヲ考フルニ、是レ亦勞働者ト同様ニ不足ヲ告ケルニ相違ナイ、今日デモ既ニ利子ハ高クナツテ居ルガ、戰後ニナルト資本ノ需要ハ更ニ甚シクナル、多クノ交戰國ハ公債ヲ借換整理セネハナルマイシ、工業ハ多クノ資本ヲ要スルシ、農業モ亦多クノ融通ヲ求めテ來ルデアラウ、故ニ利子ハ騰貴スル傾ヲ持テ

來ル、只平和カ回復スルト信用モ回復スル、其點カライフト利子ヲ低クスル勳モ出來テ來ル、併シ何レニスルモ、利子ハ戰後長イ間、戰前ヨリモ遙ニ高イ所ニ居ルデアラウ、

此ノ如ク、租稅ハ高クナリ、賃銀モ利子モ高クナルトスレハ生産費モ高クナル譯デ、物價モ勢高クナラサルヲ得ナイ、

全體經濟生活カ元ノ通りニ恢復セナケレハ物價モ元ノ通りニ回復スベキデナイ、今戰後ノ經濟生活回復ヲ想ウニ、サウ急ニハ行クマイ、佛國ノ最モ工業地ト稱セラルル所ハ獨軍ニ占領セラレテ居ルコトヲ忘レテハナラス、此地方ノ回復ハ獨逸ヨリ賠償ヲ得ルカ又ハ再ヒ活躍スベキ資ヲ供スルカニヨリテ定マルノデアアル、此ノ如キハ獨リ工業ニ止マラス、農業ニ於テモサウデアアル農業ハ戰爭ニ因リ大ナル缺陷ヲ生シタ、如何ニ努力スルモ一年ヤ二年デ回復シ得ベキデナイ、之ヲ家畜ニ就テ見ルモ牛ハ成長スルニ五年ノ歳月ヲ要スル、然ルニ戰爭デハ牛ノ頭數ヲ減シタルコト甚々大デアアルが殊ニ牝牛ノ數ヲ減シテ居ル、一九一五年七月一日ニ牝牛ノ減少ハ百五十萬頭ニ達シテ居ル、一八七〇年ノ戰爭ニ徴スルニ戰前ノ頭數ヲ

回復スルニハ十年以上ヲ費シテ居ル此ノ如ク農業ニテモ工業ニ於ケルト同様ニ恢復容易デナイ、是レ亦戰後物價騰貴ヲ繼續セシムル一因トナルニ相違ナイ。